

JR九州の強烈な光と影

強烈な光とは？

全国的に注目を浴び、車両製作費30億をかけ新製されたクルーズトレインな「つ星」その他にもなつ星運行の為に駅や線路等についても多額の経費をかけ整備)や「ゆふいんの森」をはじめとした、観光列者 D&S)の運行や九大六本松キャンパス跡地を117億円で購入、東京でのホテル建設、博多駅前ビルの開発、大分駅ビル開発など、多岐にわたり多額の投資をしています。これらは、マスコミから注目され新聞報道やニュース等でも大きく取り上げられ、日本全国から**JR九州が注目され強烈な光があたっています**。JR九州は来年度中の株式上場を目指していますが、国土交通省のプロジェクトチームから地方創生(ななつ星や観光列車の運行)や関連事業での黒字(利益の拡大)が行われており上場企業してもやっていると考え方が示されておりJR会社法の適用除外になる事が国会で承認・可決されました。世間から注目され、このような強烈な光が当たっていますが、そこで働く社員の労働条件はどうなのでしょうか？

厳しくなる労働条件

上場を目指すJR九州ですが、そこで働く労働者や光の当たらない影の部分のローカル線の今後は一体どうなっていくのでしょうか？どんなに素晴らしい列車やビルが出来ても、そこで働く労働者がいなければ**安全・安定輸送も利益もあげることが出来ません**。しかし、現在の職場状況をみると賃金は上がらない、社会保障費は大幅に増加するなかで自分の為に自由につかえるお金が減ってしまっていますか？列車やビルなどに多額の投資ばかりでなく、**社員にも還元してもらいたい**ものです。社員の中では株式上場をすれば株主への配当の為に、さらに賃金が削減されていくのではとの声が聞こえてきます……

又、ローカル線の無人化やワンマン運転の拡大など、光の当たらない影の部分は、経費が削減され安全運行への懸念や交通弱者の切り捨てにつながっていくのではないのでしょうか？

最近、職場の仲間が疲れ切っていませんか？



誰の為の何の為の株式上場なのかな？
労働者を主役に！



若い力

第28号

2015年7月1日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515